

社会に生きる LGBT

Rainbow WISH ～社会に生きる LGBT～ 茨城代表
滑川 友理（なめっち）

【LGBTとは】

【性同一性障害（トランスジェンダー・GID・性別違和）と同性愛の違い】

【LGBTの原因は？】

【アイデンティティ（自己同一性）の確立時期】

【いじめ問題】

【学校側の理解・対応は】

【家族の重要性】

【LGBT関連の法律や制度等】

【当事者の気持ち】

【明日から出来ること】

LGBT用語

★LGBT関連用語

[セクシュアリティ] sexuality

性全般を指す言葉。自分自身の性別や、恋愛対象等。当事者の中では「セク」と略し、自己のセクシュアリティ紹介に使用することが多い。

[セクシュアルマイノリティ] sexual minority

性的少数者とも言われる。自己の性別に違和感がなく、恋愛対象が異性の場合が多数者であることに對し、それに当てはまらない者。

[性自認]

自己が思う性別。戸籍の性別とは別。性自認が確立するまでに時間がかかることもある。自分は男なのか、女なのか…と。

[性的指向]

自己の恋愛対象・性的対象。どの性別を対象とするか。

[カミングアウト]

隠していたセクシュアリティを、誰かに打ち明けること。公表すること。

[レインボーフラッグ]

LGBT当事者の尊厳と、LGBT社会運動を象徴する旗。1970年代から使用された。この虹のような色合いは、LGBTコミュニティの多様性を表している。

★生物学的性に関する用語

[性分化疾患]

インターセックス、性発達障害とも言われる。内外生殖器・染色体等、身体的特徴が男女のどちらなのか判別しづらい身体のこと。性分化疾患という病名があるのではなく、それに関する約60種類以上の症候群・疾患群を包括する用語。

★性自認に関する用語

[トランスジェンダー] Transgender

さまざまなニュアンスがあるが、現在日本では、身体的性別と異なる性自認の性で生活をする場合、この人達全般を指してトランスジェンダーと呼ぶに至っている。

[GID] Gender Identity Disorder

性同一性障害の医学的な診断名。身体的な性別に不快感・違和感を持ち、逆の性別として生活していきたいと強く望む。生物学的性と性自認が一致しない人。性同一性障害と診断されると、本人の希望で、さまざまな治療が行える。また、家庭裁判所で性別の取扱いの変更審査を受けることによって、戸籍の性別変更が行える。

[SRS] Sex Reassignment Surgery

性別適合手術の事。本人の望む性別に合わせ、内外性器に関する外科的治療・手術を行う。昔は性転換手術と呼ばれていたが、現在では、生物学的性ではなく性自認に視点を置き、「性別を変える」ではなく「性別を適合させる」という考えのもと、2002年に日本精神神経学会が性別適合手術に統一した。

[MtF] Male to Female

GIDの中で、生物学的性が男性であり、性自認が女性の人を指す言葉。

[FtM] Female to Male

GIDの中で、生物学的性が女性であり、性自認が男性の人を指す言葉。

[Xジェンダー]

自己の性別を男女どちらにも当てはめない人。無性・中性の性自認を持つ。男女という2つの性別にとらわれず、自己の性で生きる。

★性的指向に関する用語

[同性愛者] homosexual (ホモセクシュアル)

自己の性自認と同様の性別を、恋愛対象・性的対象とする人のこと。ホモセクシュアルをホモと略すのは、差別用語にあたるので注意。

[レズビアン] Lesbian

性自認が女性であり、女性の事を恋愛対象・性的対象とする人のこと。見た目は、ボーイッシュの人もいれば、フェミニンな人もいる。レズと略すのは、差別用語にあたる。略すのであれば、ビアン。

[ゲイ] Gay

性自認が男性であり、男性の事を恋愛対象・性的対象とする人のこと。基本的に女装はしないが、時に下派手な化粧・女装をし人前でパフォーマンスする人の事をドラァグクイーンという。オカマと呼ぶのは、差別用語になるケースもあるので注意。

[バイセクシュアル] Bisexual

両性愛者。同性のことも異性のことも恋愛対象・性的対象とする人のこと。バイと略すこともある。

★その他

[オナベ]

水商売の職業の名前。FtMまたは女性が男装をし、オナベバーで働く人のこと。FtMのことを「オナベ」と認識している人も多いが、間違った認識である。当事者にとっては差別用語となるケースも多いので注意。

[ニューハーフ]

水商売の職業の名前。MtFまたは男性が女装をし、ニューハーフバーで働く人のこと。MtFのことを「ニューハーフ」と認識している人も多いが、間違った認識である。当事者にとっては差別用語となるケースも多いので注意。

[アライ]

LGBT当事者では無いが、LGBTなどの人々が社会的に不利な立場に置かれていると感じ、LGBTに対し否定的な人や、異性愛を標準と捉える価値観に対して、解消活動や異議の表明を行っている支援者。

～当事者の体験談～

【質問内容】

- ・幼少期、自らがLGBT当事者だという自覚はありましたか？
- ・中学生、高校生では自覚について何か変わりましたか？
- ・学校生活で、困っていた事や傷ついた出来事はありましたか？
- ・学校の先生や親に望む事はありましたか？してもらいたかった事はありましたか？

【回答者】

性同一性障害 FtM（4名） レズビアン（4名） ゲイ（1名）

【回答】

【N 30歳 管理職 : 性同一性障害 FtM】

小学生の頃は、自覚はありませんでした。と言うよりは、GIDという存在を知らなかったの、当てはめる当てはめないがまずありませんでした。

ですが、低学年の頃からスカートは嫌がって全く履かない子でした。

晴れた日は近所の男の子と外で陽が落ちるまでサッカー、雨の日はゲーム。そんな毎日でした。"女だから"という言葉はなく、自分も性別を意識せず、毎日楽しかったです。

小学校3年生までは男の子とばかり遊んでいました。

でも、小学校中学年になると男子と遊んでいる自分が「おかしいのではないか？」と思うようになりました。

さらに、小学校中学年にもなれば女子のグループ分けもよりハッキリする年代。

全く女の子の遊びが出来ないまま進級していたので、遠足等の女子グループには入れずに、遠足の時に1人でお弁当を食べた記憶があります。

決してイジメられていたわけではありませんが…

そこからは、女子のグループに入ろうと自分なりに努力をし、自然と男子と遊ばなくなりました。それが小学校高学年私は稀かもしれませんが、この頃は異性と遊んでばかりいると、イジメられる傾向にあると思います。

この頃に私は、好きな女の子がいましたが、誰にも言えませんでした。

中学生になり、制服が嫌で嫌で嫌で仕方ありませんでした。

極力ジャージで過ごしましたが、そんな事は校則で許されず、渋々制服を着ていました。

制服でスカートは履くものの、私服では相変わらずスカートは履かず、その頃にはもうメンズ服しか買っていませんでした。生理が来た時もショック過ぎて、親にも言いませんでした。

髪も短かったので、男子から「オトコオンナ」とも言われたりしました。

その頃は、女子と仲良く出来ていたの、男子とは全く話さない学校生活でした。

男子が嫌いでした。

今思うと、羨ましいとか妬みとか…そんなつまない理由だと思います。

部活は女子バレー部に所属していました。

部活は女子の友達も多く楽しかったです。

高校生活は、中学から始めたバレーに熱中し、バレーボールをやるために高校を選びました。

部活が厳しかったので、髪を短くするのが部則でした。それが救いで、短髪でも何も言われませんでした。

本格的に恋愛をするようになり、高校2年生で初めて彼女が出来ました。

ですが、誰にも惚気話や相談する事なく、終わってしまいました。

高校2年生の時、テレビドラマ金八先生で、GIDを取り上げている問題がありました。

そのドラマを見て、もしかしたら…と思うようになりました。

そこからGIDに関する本や、インターネットで調べる日々が続きました。

少しずつではありますが、自分を肯定出来るようになりました。

親に望むこと。

男の子だから…女の子なのに…と、しばらないであげて下さい。

そして、GIDでも立派な大人に成長します！

私の周りにはみんな素晴らしい人格の方ばかりです。

先生や学校に望むことは、ちょっと難しい！

特に小学生、中学生は、少数派の人間をいじめる傾向にあるから。

「少数派な事が悪い事ではない、個性なんだよ」

という教育もあるかもしれませんが、性別は個性でもなんでもないので、当事者を余計に困惑させるかも。

[S 23歳 アパレルスタッフ : 性同一性障害 FtM]

小学に入学する時に、市で赤いランドセルが配布され嫌な思いをした。また、学校の帽子も、男子と違う帽子で何で自分は違うんだろうと疑問に思う様になった。

男の格好もしていたし、遊ぶ友達も男が多く、女子と一緒に居たくないという思いがあった。

中学に上がり、制服がある事に嫌な思いをした。

極力制服でいる時間を避けた。

中学に上がった頃からGIDという言葉を知り、自分はそうでないかという疑問が浮かんだ。

高校2年生で親、生徒にカミングアウト。東京にある「はりまメンタルクリニック」に通院する様になり、高校3年生で性同一性障害の診断書を受け取る。

学校側は、制服制度の改善や、LGBTに対する知識を高めてほしい。

生徒が学校に言える環境を作してほしい。

学校での実態調査は行なっていると思うが、もし可能であれば実態調査後に県でLGBTの学生を対象に講義を行なってほしい。(経験者からの講義)

親に対しては、保護者だけに対しての講義を行ない、LGBTとは？の知識を持ってもらいたい。

認められない気持ちが高いとは思いますが、最終的に認められない気持ちが大きいと子供はこうなる。という思いを伝えてほしい。

[U 28歳 介護士 : 性同一性障害 FtM]

俺の場合は小学生のときは自分が男だという自覚というよりも、自分は女だけど、男の子と同じ生活がしたいという感覚だった。

だから、兄貴のお下がりの洋服を好んだり、男の子の友達と遊んだり、可愛いよりもカッコイイって言われた方が嬉しかったって感じの生活だったかな。

困ったことは、親が可愛い女の子で育てようとしてたから、髪の毛も伸ばしてたし、洋服もピンク色とかスカートで苦痛だったね。

でも「絶対着ない！」って言って、一度も親が選んだ服は着たことないけど。笑

中学のときは人生初の制服で、ましてやスカートってことに本当に悩んだ記憶がある。

部活をやっていたから、朝練っていう理由で、基本ジャージ登校。朝礼とかあるときはスカートの下に短パンはいてたね！

あとは、思春期ってのもあるから、男の子と一緒にいれば、あーだこーだ言われるのも嫌で…周りの目を気にして、嫌でも女らしく、できるだけ女の子の友達と一緒にいるようにしてたかな。

こういうのもなんだけど、中学時代はかなり女の子にモテたので、常に体育の授業でカッコイイとか言われるのが快感だったわ！笑

自分が性同一性障害かもしれないって気付いたのは中学のとき。テレビの金八先生で性同一性障害が取り上げられたから。

きつと、これで自覚したってFtMは多いと思うよ！

高校のときは完全に自覚してたけど、女子校だったからボーイッシュな子も多くて、なんとか紛れ込んでボーイッシュな女の子で定着してたかな。

高校のときに困ったことはなかったかな。唯一あるといえば、バイトをしたから「化粧とか身だしなみをきちんとしなさい」って言われるのが嫌で、バイト先もいろいろ悩んだぐらい。

俺の場合はラーメン屋で落ち着いたよ。

キッチンなら油ギドギドで化粧なんか必要ないし、ホールでもボーイッシュで通せたからね！

中学と同じで基本スカートの下に短パンはいてたし。笑

今は教育の現場でも、理解が増えてきていると思う。

性同一性障害だと訴えてきた子どもがいるなら、その子とどういう学校生活を送りたいか、話し合ってくれたり理解しようとしてくれるだけでも救われるんじゃないかなと思う。

制服だって、今は学ランも許可してくれる学校が増えてきているみたいだし、一人一人の生活に耳を傾けて受け入れてくれるだけでも嬉しいんじゃないかな。

それは親も同じだと思う。

でも、親は学校の先生とは違うから、もっともって子どものことを理解してもらいたい。

親の都合で子どもの生活を操るのではなく、子どもの思考や意向を聞くために少しでも耳を傾けてほしい。

俺らはカミングアウトすることに不安がいっぱいで、その中でも恐怖もある。

そんな気を張った子どもの異変に気付いてほしい。

カミングアウトされたら、全部を受け入れてくれとは言わない。でも、少しでもいいから未来のためにどう生きていくかを一緒に考えてほしい。

学校生活の延長線上に社会人っていうルールがあって、社会人のルールは学校生活とはまた違う悩みや壁にぶち当たるとは思うけど、みんなそれを乗り越えて生きていくんだと思う。だからまずは、学校生活で未来の自分を導きだせるといいなと思うよ！

[K 28歳 自営業 : 性同一性障害 FtM]

小学校低学年の頃は自覚無。

女子、男子ということに対しても、何も感じてはいなかった。

いつからか「オトコオンナ」とイジメられるようになり、女子がキャーと逃げて行った！笑

「チンコついてんだろ？」と、パンツ脱げまで言われたな。

サッカーをやりたくても、チームに入れてもらえなくて悔しい思いもしたな。女子だからというただそれだけの理由で4年生になり好きな女の子ができ…生理もきて…自分が何者なのかと怖くなった。

家族にも「おまえは間違えて生まれてきちゃったんだ！」とも言われたな！笑

テレビで性適合手術について見て、そこからは自分が何者とかは考えなかった！自分は、本当は男なのに女に間違えて生まれた！ただそれだけなんだってね！

中学は、スカートがいやで私服の中学がいいと言ったがダメと言われて…結果スカート生活。でも、ほぼジャージで過ごせたからよかった！

恋バナはきついものがあつたかな。小学校の時もそうだったけど、みんな好きな人がかぶって当たり前みたいな感じだったから、合わせて話したりしたな。

高校生活。最初は嫌だった！頭悪いから女子高しか入れない。高校は出なきゃいけないと言われて入った学校だったから！

でも2年になって、理解してくれる友達に出会えて、同じ思いをしてる友達に出会えたから！別に恋バナで男の名前を出さずに、好きな女の子の話もできたし！楽しかった！

でもオレのように、理解ある人、同じ思いの人に出会えるかといえば難しいと思う。学校の中ではみんな偽りの自分であるはず。イジメとか噂とかあるから、何もなくて学校生活を無事に過ごすことしか考えてないと思うから。

みんなちゃんと本当の自分をだしていれば、オレのように同じ思いの人に出会えるんじゃないかと思うんだけどね！

学校の先生や親が、本人にストレートに「GIDなんじゃない？」聞いたり、「好きな人はいるの？」って言われても、話したあとの視線、態度がどうなるか怖くて話せないと思う。

だから優しく笑っていて欲しい。

何も聞いてこないでほしい。

中には性自認ができてない子もいると思うし、「自分はGIDなのか？」と勘違い、先走りすぎてしまう子もいるから

だから目の届くところに資料を置くなり、GID関連のテレビを見せたりして、自分を見つめ直させる。考えさせてほしい。自分の中で答えがでたとき、アクションを起こしてくる。そのときは、優しく笑って話を聞いてほしい。先生でも親でも友達でもいい。一人でも話を聞いてくれれば、その子はすごく楽になれるし、先に進めるはずだから！

[M 32歳 会社員 : レズビアン]

幼少期は自覚はありませんでした。

中学2年生の時、女性に興味を持ちました。幼少期と比べ女性に対して具体的にになりました。

高校生の際に片思いや、お付き合いもしました。

学校で同性愛が禁止されていて、陰湿なやり方で別れさせられた事があります。

理由は『気持ちが悪い』からと言われました。

学校の先生には、LGBTの人も世の中にいるって事を知って欲しかった。

[S 36歳 専門職 : レズビアン]

思春期までは自覚はありませんでしたが、少しだけ友達に執着心があつたぐらいです。大学生になった時に初めて女の子を好きになった時に自覚しました。

授業中の閑話でゲイについて話してくれる先生がいたので良い先生に出会えたと思います。

(中学の英語の授業で歌を教材にしていた時に last Christmas を扱った時に、wham!の話をしてくれました。)

今の先生にも、特別な授業ではなく、普通の話題として取り上げてくれるといいな、と思います。

また、LGBTというものそのものを知らず、自分だけおかしいのでないかとずっと悩んでいた時に、学校の保健の授業で「男女の恋愛」のみだった時、少しだけでもそういう人がいる事を教えて欲しかったです。

保護者も含めての、あらゆる性やマイノリティについての講習会などが定期的にあつたらよかつたと思う。

子供から親へ発信しても、聞き入れてはくれないし、気の迷いと言われるか、頭がおかしいのではと言われる。(わたしの家庭は悲しくもそうだった。それからは話題にはしていない。)

同性愛者は、裸同然の格好をして街をパレードしている人たちのことだと思っている人もいる。

普通に生活しているのに。

確かにきらびやかで派手なものの方がメディアは食い付きもいいし記事にしやすいが、もっとピックアップしてほしいのは日常を「普通」に生きている様子。難しいと思うが、それらを浸透させたい。

教職員も親も敵では、ティーンズのマイノリティたちは生きにくく、歪んでいってしまう人もいる。死んでしまう人もいる。

認めなくてもいいが、否定しない教育をしてほしいと思った。

親に望むことといえば、それは自分を認めてもらうこと、してもらいたかつたことも、ただ認められたかつた。それだけです。

[A 31歳 看護師 : レズビアン]

自覚はありませんでした。そもそも、lgbtという枠があることを知らなかつたので、自覚の仕様がありませんでした。

ただ、男の子になりたいという願望はありました。

周りとはどこか違う自分を恥じて、自ら進んで行動するようなことはありませんでしたし、常に誰かの後ろに隠れているような幼少期でした。

中学生の際に初めて"レズ"という存在を知りました。

女の子は男の子と付き合つて結婚して子供を産むのが当たり前だと思つてきた私にとって、あまりにも新鮮で、あまりにも差別の対象となる存在でした。

ただ、みんなと一緒にやだ～(笑)なんて言いながらも、どこか引つかかつていたのは覚えています。

高校生の頃は男の子と付き合つていましたが、違和感は感じていました。

ですが、lgbtを差別の対象としてしか見ていなかつたので、自分が当事者だという自覚はありませんでした。

短期大学在学中に自覚したのですが、私の場合は遅咲きで、ある程度大人に近い年齢だったので、特に不満はありませんでした。

これは社会人になった今もそうですが、周りにバレないように注意はしています。

教育システムの問題ですが、選択肢の幅が広いことを教えてほしかったという気持ちはあります。友だち伝いに聞く"レズ"と教育上で認知する"レズビアン"、どちらがいいのかは誰の目から見ても明白だからです。親に対しては特にありません。なぜなら、親世代の方がlgbtという概念がないからです。これは、私たちが親から教えられるのではなく、私たちの世代が親の世代に知ってもらおうよう努力するしかないのだと思います。

[H 28歳 美容師 : レズビアン]

自分は周りと違うからおかしいとばかり思って悩んだ記憶があります。初めて違和感を自覚したのは小学5年生、1つ年上の先輩を好きになった時です。嫉妬もしましたし、先輩に彼氏ができた時にはかなり落ち込みました。中学ではフェイクのために男性と付き合ったりしましたが、やはり気持ちは全く無く、やっぱりみんなとは違うことで悩みました。でも中学で初めて彼女ができて、これが自分の本当の気持ちだと中学・高校で自分の中ではっきりさせたところがあります。中学時代に付き合っていた彼女と帰り道でキスをしていたら、後日近所の人から学校に『女同士でキスしていておたくの学校はおかしい』と通報が入り個別面談を受けました。そこで先生に『将来のために、そういうの(同性愛)は今のうちにやめておきなさい』と言われたことがありました。言われたその時は、その場を早く離れたかったので「はいはい」と返事をしていましたが、この出来事は今でもずっと忘れることはありません。どうして他人にそんなことを言われなければならないのか。教師という立場で、そんなことを言い切っているのか。学校の先生になるためにどんな勉強をするのかは全くわかりませんが、性の多様性は誰にも否定されることはあつてはならないと考えています。他に困っていた事ですが、男っぼいとか言う理由で先生から女だから女らしくしろと強要されたことが何より辛かったです。プラスバンドの発表会で女子は必ずスカート履きなさいと決められ、ズボンじゃないと出席しないと行って、1人だけズボンを作ってもらったこともありました。周りの冷たい態度や視線は今でも忘れません。ワガママ言うな!という先生からの言葉も一生忘れません。「女だから」とか「男だから」とか、そういう枠にはめようとしてくる先生に、とても幻滅したのは本音です。個人としてではなく、集団として扱われることや、少数派というだけで間違えてるような言い方をされていたので、もっと個人を見れる先生を増やしてあげて欲しいです。「おかしくないよ」と味方になってあげれる先生を増やして欲しいです。親には否定をされたことも、少数派であることについて嫌な態度を取られたことはないのです、その点とても幸せだと思います。でも親である故に、治そうとされたり病気扱いしたり、実際にそういう方は沢山いると思うので、もっと少数派ではなく多様なオープンな地域、国になって欲しいです。

[B 30歳 販売員 : ゲイ]

幼少期、自覚はありませんでした。当然のように、異性を好きになって将来は異性と結婚するものだと思っていました。結局、異性を好きになることはありませんでしたが。中学で同性の友人を好きになりましたが、自分がゲイだとは考えませんでした。高校に入って、友人と恋愛の話をするが増えるから、自分がゲイだという自覚を持つようになりました。悩んだ事は、マンガに出てくるオカマのキャラクターと同じあだ名で呼ばれたことです。また、教師から「男の子なんだから、女の子に優しくしろ」と言われるのは辛抱なりませんでした。他にも、保健体育の授業で、男は女、女は男を好きになるという話になり、先生が「中には違う人もいるけどね(笑)」という話をした時に、こうやって一生笑われて生きていくのかなと思いました。今後学校は、もうちょっとLGBTについて知識を付けて、絶対にいるであろうLGBTの生徒が、周りの目を気にせずに楽しく過ごせるようになれば良いなと思います。